

荘内だより

荘内病院
臨床研修
通信 Vol. 4
2018. 2 発行

ドクター出前講座

研修医が寸劇を披露

「ドクター出前講座」は、病院の医師が地域に出向き地域医療の現状などを伝え、市民が当院に何を求めているか生の声を聞く機会を持つと、地域医療連携室が企画しました。

講座は休日の午後、鶴岡市の町内会などの協力でこれまで3地域の公民館等で実施しました。がん予防講話から始まり、救急外来受診の際の注意点などを分かりやすく紹介する寸劇や住民との車座トークを通して、当院の役割や改善すべき課題などを本音で話し合うことができました。

寸劇には座長の鈴木聡先生他、研修医の工藤俊之介先生、佐藤みさお先生がそれぞれER担当医として登場し、市民の扮する患者の診察を通して救急診療の重要性について、時にユーモアを交えながら熱演してくれました。

車座トークでは、参加者からは当院と研修医への激励の声や、当院を今まで以上に身近に感じることができたなど多くの意見が聞かれました。この模様は、新聞各紙にも大きく取り上げられました。



研修医が荘内病院と市民の架け橋に！
(車座トーク)



寸劇の一コマ (左端が佐藤みさお先生)

山形大学医学部室内合奏団サマーコンサート ~in 荘内病院~

平成 29 年 7 月 1 日 (土) に、山形大学医学部室内合奏団の皆様 20 名をお招きし、『山形大学医学部室内合奏団サマーコンサート in 荘内病院』が当院中央ホールで開催されました。

当日は入院患者さんをはじめ、看護学校の学生さんや広く市民の皆様からもお越しいただき、その美しい音色に聴き入りました。演奏会の終盤では当院の看護師が合奏団をバックに独唱するなど大いに盛り上がる内容となりました。

初めて鶴岡に来たという医学生さんもいて、行き帰りのバスの車内では、車窓から見える鶴岡の美しい町並みに感嘆の声が上がるなど、鶴岡を知ってもらうきっかけとなるコンサートとなりました。今年も開催する予定です。



また素晴らしい演奏をお聴かせください。
荘内病院一同、お待ちしております！

先輩の声

サクライ ヒロキ

櫻井 裕基 医師（新潟大学卒）

研修期間

平成27年4月～平成29年3月



昭和大学より派遣され、現在、新久喜総合病院の形成外科に勤務しております。

研修していた頃は、荘内病院の置かれた環境故の“断れない救急”から多くを学ばせていただきながらも、「専門科に進んだ後、この救急診療力は生かされるのだろうか。」と思っておりましたが、私が今勤務している病院のモットーは、“断らない救急”で、勿論、全科当直です（笑）。

埼玉県の医師人口比は、全国で最下位で、当院の診療圏人口は60万人です。救急車の大半は複数回以上搬送を断られ、当院に搬送されます。搬送台数が年間7000台に迫るにも関わらず、医師数は40人に満たない当院は、偉大なる2次救急病院、荘内病院に非常に似ております。

今は、そんな環境の中で、研修医時代に学ばせて頂いたことを日々の診療に生かしながら、研修医達を指導し育てることが楽しみです。無論、形成外科医としても精進しております（笑）。

12月には遂に、執刀医として、完全切断指を繋ぎました！（切断指は、年間40人以上搬送されるので、バリバリ鍛えられております）

これからも荘内病院で学んだことを糧に、ドンドン前に進んでいきますので、見守っていただければ幸いです（笑）！

研修医を紹介します！



おおこうち

大河内 まどか 先生

（協力型1年次・平成29年10月～平成30年5月）

- ①山形大 ②福島県福島市
- ③「円」：名前の由来は「性格の丸い子に育ちますように」です。
なかなか名は体を表しません...
- ④走ること、ごはんを食べること
- ⑤友人と電話したり、飲みに行っておしゃべりすること。
- ⑥8か月荘内病院にお世話になります！頑張ります。

- ①出身大学 ②出身地 ③自分を表す漢字1字とその理由 ④趣味・特技
- ⑤あなたの小さな幸せは ⑥これからの意気込みやメッセージ

先輩の皆様のお便りをお待ちしています。また、連絡先が変更になった場合もご連絡をお願いします。

連絡先：鶴岡市立荘内病院 臨床研修委員会 臨床研修秘書 伊藤 江里子 電話0235-26-5111

Email : kenshu-secretary@shonai-hos.jp

